

説文繫傳引字書云、萋狗尾草也、廣雅萋秀也、故秀萋皆云、狗尾戰國策魏西門豹云、幽秀之幼也似禾、幽即萋假借字、夏小正、四月秀幽、毛詩作四月秀萋、時珍曰、秀草秀而不實、故字從秀、穗形象狗尾、故俗名狗尾草、原野垣墻甚多生之、苗葉似粟而小、其穗亦似粟、黃白色、而無實、程瑤田云、秀亂禾粟之草、一本或數莖、多至五六穗、與禾一本惟一莖、一穗、異穗多芒類、狗尾、俗呼狗尾草、實小於粟、而形長、初生時草全似禾、故聖人惡之、北方人云、惟禾中有之、黍地則無、余叩之、老農非黍地本無也、與黍異、見即鋤去、不爲所亂、生於禾中必成穗可辨耳、

〔書言字考節用集生植〕狗尾草テ、コ、グ、サ 秀同 光明草並見本草
 〔倭訓栞中編二十九〕るぬのこぐさ 和名抄に狗尾草を訓せり、秀草子也、今るのこ草といへり、夫木集に、

るのこ草おのがころくほに出て秋置露の玉やどるらん、七夕に禁中にて芋の葉に露をうつし、るのこ草にて結て院中へ進せらるゝよし、年中行事に見えたり、牽牛をいぬかひぼしといへるによるなるべし、

〔重修本草綱目啓蒙十二〕狗尾草 エノコグサ和名 古歌 エノコログサ今名

トウグサ備後、狗子、方言 トウグサ備中 スバメノア、ハ イノチア、ハ 水戸 イノコグサ長崎 イヌグサ泉州 エノコボ讃州 カニグサ長州 トコグサ防州、犬、方言
 フヤリ秋田 イヌコロ肥前 カイルトラ、丹波 一名猫狗草簡便方

原野隨地ニ皆アリ、庭際ニモ自ラ生ズ、苗穗共ニ粟ニ似テ小シ、穗ニ紫毛ノモノ、綠毛ノモノアリ、地ノ肥瘠ニ因テ苗ニ大小アリ、蝦夷ノ産ハ穗ニ五六岐ヲ分チ紫色ヲ帶ブ、中

増一種カナトリサートト云モノアリ、即細葉ノ狗尾草ナリ、舊子地ニ落テ冬ヨリ苗ヲ生ズ、葉ノ形チ小麥ノ葉ニ似テ、一根數葉地ニ布テ叢生ス、夏ニ至テ莖ヲ抽ズルコト、六七寸ニシテ穗ヲ生